

| 重点課題 | | 担当部・課 | 重点目標 | 自己評価 | | 評価 | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|-------------|-------|--|---|--|---|--|---|---|
| 重点課題 | | 担当部・課 | 重点目標 | 評価指標と活動計画 | | 評価 | 学校関係者の意見 | 今後の改善方策 |
| 安心・安全な学校づくり | 総務保健課 | (全校レベル) I)児童生徒が安心して通うことができる学校づくり II)児童生徒、一人一人の人権を尊重した教育の徹底 II)事故防止ができる環境整備の推進 III)各種の災害に備える防災対策の充実 ＜下位組織レベル＞ ①校内の防災対策の見直し・検討をし、必要な訓練その他の追加を行う。 | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | B (評定) (所見) ①避難訓練については、各訓練において100%の参加率であった。教員が自分のタイミングでiPadを活用した視聴研修ができた。アンケートの回答もWebを活用したりなど、研修形態も工夫し、研修への参加をしやすいと考える。 ②従来のクラス担任の対応による避難訓練に加え、時間を設定し、授業者対応での避難訓練を実施した。更に、避難場所を玄関外周りに変更したことや、防火扉が開まった中での移動など、新しい訓練にも挑戦することができた。 ③新しいことにも挑戦し、多くの改善もできた部分もあるが、一方で特別教室等のヘルメットの設置が間に合わなかった。リストもまだ不十分であり、次年度、早急に取り組みしなければならない。 | ・災害用品で、賞味期限が切れたものを廃棄するのはもったいない。訓練のときに食べてみるとか、使えないだろうか。 ・阿南支援学校防災地域連携協議会において話し合いができて、連携したことでも足りない物を補充できたということが、本年度の成果である。 | ①緊急時にも教員同士が連携した対応ができるように、来年度も訓練内容及び研修形態を工夫したり、教員が参加しやすい研修の環境を作るなどして取り組んでいきたい。 ②昨年度から準備を進めてきた「災害時、児童生徒引き渡しの訓練」の実施は、本校初の取り組みで、充分評価に値するものだと考える。次年度はバージョンアップした「引き渡しカード」を使用し、今年度上がってきた課題解決を目標にすると共に、特別教室へのヘルメットの配備ほか、人権生徒課と協力して、より実際に即した訓練になるよう進めていく必要がある。 ③現在上がっている災害時準備品リストを予算と相談しながら確実に準備していきたい。その使用期限や使用方法、保管場所なども全職員に周知し、緊急時には誰もが直ちに動けるような準備がしたい。 |
| | | | ①-1避難訓練の内容を吟味し、必要不可欠な内容に変更または追加をして訓練を年2回以上実施する。 | ①-1年間①回実施した。地震により火災が発生したと仮定し、通常の避難場所ではない玄関外周りに避難した。その際校内の防火扉を閉め、防火扉の中扉を手動で開閉して移動するという新しい避難訓練を実施することができた。 | ①-2校内の防災用品について、リストに沿って点検を2回行い、確認した。使用期限や消費期限の切れたものについては廃棄し、廃棄した物の補充及び必要な物については個数などの検討を重ね、追加した。 | | | |
| 安心・安全な学校づくり | 人権生活課 | (全校レベル) I)児童生徒が安心して通うことができる学校づくり II)児童生徒、一人一人の人権を尊重した教育の徹底 II)事故防止ができる環境整備の推進 III)各種の災害に備える防災対策の充実 ＜下位組織レベル＞ ①通学時の事故防止対策を徹底する。 ②「自分を大切に」「人を大切に」「物を大切に」という3つの大切なことをキーワードにして生徒指導にあたる。 | 評価指標 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | A (評定) (所見) ①節目節目で通学指導を実施することで、生徒の通学時の課題等を早期発見することができ、対応策を立てることができた。 ②生徒にとって、よりわかりやすい言葉でキーワードを設定することで、理解・定着を目指した。このことにより、各学部で同じ方向性で、生徒指導にあたることができた。 | ・タブレットは家に持って帰っているのであれば、不登校のお子さんも、オンラインで授業を一緒に受けたいと考えている。何か興味のあることを共有することで、登校するきっかけになるのでは。 ・児童生徒が安心して通うことができる学校づくりを重点目標に掲げられている。評価を見て、概ねできていると思う。 | |
| | | | ①-1自力通学生が事故防止やマナー遵守を意識しながら通学することができる。(学校安全の日や長期休業明けに阿南駅と南島バス停、坂下横断歩道等で通学指導を行う。) ①-2講話を年間10回以上行う。 ②-1生徒間の諸問題の発生を減少させることができる。(年間3回以上話をする。) ②-2「いじめについての実情調査」を年間3回実施する。 | ①-1通学時の交通事故等なく、安全に通学することができた。 ①-2安全に関する講話を年間を通して11回行うことができた。 ②-1「3つの大切なこと」をキーワードにして生徒指導にあたり、各学部の集会や、始業式・終業式などの節目において、繰り返し児童生徒に伝えることで、理解・定着を目指すことができた。 ②-2「いじめについての実情調査」では、いじめの報告はなかった。 ②-1各学部の集会や、始業式・終業式などの節目において、繰り返し児童生徒に伝えることができた。 ②-27月・11月・2月の年3回「いじめについての実情調査」を実施した。 | ①-1通学指導を行う。 ①-2学校安全の日や長期休業明けに阿南駅と南島バス停で実施した。 ①-2毎月の学校安全の日、10～20分程度の自力通学生安全の講話を行う。 ②-1各学部の集会等で、児童生徒の心に残るような話をする機会をもつ。 ②-2「いじめについての実情調査」を実施し、いじめ問題に早急に対応する。 | | | ①-1毎月の学校安全の日、年度初め2日間、長期休み明け2日間の通学指導を、JR阿南駅と南島バス停で実施した。 ①-2毎月の学校安全の日、10～20分程度の自力通学生安全の講話を行う。 ②-1各学部の集会や、始業式・終業式などの節目において、繰り返し児童生徒に伝えることができた。 ②-27月・11月・2月の年3回「いじめについての実情調査」を実施した。 |

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった